

「 日頃からの 」

鹿児島市立桜丘中学校 3年 井田 知里

土砂災害。近年、大雨や台風の影響で日本各地にさまざまな被害をもたらしているのを、ニュースや新聞でよく見かける。そこで私は、土砂災害にどのような種類があり、どのような被害を受けているのかを、インターネットで調べてみることにした。

調べてみると、土砂災害には三つの種類があることがわかった。

1つ目は、「崖崩れ」である。集中豪雨や地震などにより、瞬時に斜面が崩れ落ちることだ。崩れるスピードが早いため、死者の割合が他の二つに比べて多い特徴がある。

2つ目は、「土石流」だ。長雨や集中豪雨によって、一気に土や石の泥水状の激しい流れが下流へと押しかける。時速 20 キロから 40 キロと自動車並みの速度で流れ、破壊力が大きいため、人家や田畑を押し流し、大きな被害をもたらす。

3つ目は、「地すべり」である。比較的、緩やかな斜面において、粘土や泥岩を含む滑りやすい層が、地下水の影響を受けて、ゆっくりと動き出す現象のことだ。一度に広い範囲が動くため、発生すると、人家や道路、田畑に大きな被害をもたらすのはもちろん、川をせき止め、洪水を引き起こす原因になることもあるそうだ。

日本において、このような水害を含めた土砂災害が起こった地域は、90 パーセント以上を占めている（内閣府）。また、平成 25 年から令和 4 年まで直近 10 年の間に、平均して 1 年間におよそ 1446 件の土砂災害が発生しており、一人一人の日頃からの備えが必要であると言われている。

その中で、みなさんは「防災」「減災」という言葉を知っているだろうか。災害を未然に防ぎ、災害が発生した場合における被害拡大を防止し、復旧を図ることを「防災」。災害によって被る被害を最小限におさえるために、あらかじめ行う取り組みのことである。世界中でさまざまな自然環境に関わる課題がある中で、今、最も重要であるとされていることは、減災に対する意識をもって行動することであると考えた。減災の取り組みとしては、備蓄品の徹底や、家具の転倒防止、避難先の情報収集、ハザードマップの確認などが例に挙げられる。これらの取り組みは、土砂災害に焦点を当ててはいないものの、地震や台風などにも備えられるため、とても有効であると思う。

現代を生きる私たちは、さまざまな媒体を T P O で使い分け、情報を収集する。災害が起きたときは、与えられている媒体と身につけた知識が必要となるため、あせることがないように、日頃の生活を意識することが大切であると思った。

私が住む鹿児島には、夏から秋にかけてたくさんの台風が上陸し、さまざまな被害をおよぼす。さらに、鹿児島の台地はシラスにおおわれているため、集中豪雨が長時間にわたって続くことにより、土砂災害が他の地域に比べて起きやすい。これらを考えると「ここなら、大丈夫！」などという安易な考え方はダメだなと思った。これから秋にかけて、ニュースやCMで、防災や減災に関わるものを目にする機会が増えてくる。もし、そのニュースを見たときには、決して他人事のように考えず、自分のこととして考え、これから先、防災について何をすることができるのかを考えて

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 最優秀賞

おこうと思った。

私の家では、玄関に防災バッグが置かれている。飲料水や保存食、ラジオ、懐中電灯など、避難した際に生活できる最低限のものがギッシリ詰め込まれている。また、寝室のドアの周りには極力、物を置かないようにしている。なぜなら、もし棚や机が倒れ、ドアを塞いでしまったときに避難できる通路がなくなってしまうからである。いろいろなことに考慮して生活することは、簡単ではないけれど、一つの心がけが、誰かの命を助けたり、誰かの生活を支えたりするかもしれない。

このような心をみんなが持ち、日頃の行いを見つめ直し、万が一災害が起きたときでも冷静な判断をできる人が増えたらいいなと思った。